

8. 福知山市夜久野町における 学校・地域連携

京都府立大学文学部考古学研究室

1. はじめに

福知山市夜久野町においては、2019 年度より京都府立大学地域貢献型特別研究（ACTR）の一貫で夜久野末窯跡群の分布調査や古墳出土資料の整理をおこない、成果報告書（菱田・諫早編 2024）の刊行や地域における成果報告会も実施してきた。本年度も成果の活用を進めるため、「地域・学校・博物館との連携にもとづく文化遺産の次世代に向けた活用研究」（研究代表：菱田哲郎）というテーマで取組をおこなった。具体的には、福知山市立夜久野町化石・郷土資料館の郷土史にかかる展示のリニューアル、また福知山市立夜久野学園での小学 5 年生を対象としたワークショップを実施した。地域の子どもたちに身近な文化財を知ってもらい、地域の歴史文化への関心を高めることを目的としている。実施にあたっては、福知山市文化・スポーツ振興課の松本学博氏・鷺田紀子氏、夜久野学園の古寺良行校長、辻直樹教頭、水口裕介氏にたいへんお世話になった。記して謝意を表したい。（菱田哲郎）

参加者（所属は今年度時点）

菱田哲郎（教員）、井川瑞季（京都府教育庁）、守田悠（大阪府教育庁）、吉永健人（加西市教育委員会）、瀬川裕太郎、山内愛弓、横白彩江（以上博士前期課程）、石川達葵、岡崎壮太、越川輝、依田萌奈、渡部凌空（以上 4 回生）、栗田晋吾、鮫島聖斗、多田一郎、藤井まつり、和田佳織（以上 3 回生）

2. 夜久野町化石・郷土資料館展示リニューアル

（1）事前準備

夜久野町化石・郷土資料館は福知山市夜久野町の西端に所在する地域に根差した学習施設である。夜久野町ではアンモナイトなど多くの海生生物の化石が出土するほか、やくの玄武岩公園の柱状節理をはじめとして、京都府唯一の火山である田倉山（宝山）による火山活動の痕跡が多く見受けられる。資料館の展示物は町内外採取の化石資料や火山噴出物などといった生物学的・地質学的に価値のあるものが大半を占めるが、壁際のガラスケースの一角には夜久野末窯跡群出土須恵器をはじめとした考古資料や文化財の写真が並んでいた。今回の展示リニューアルはこれらの展示物を対象とし、4 回生がおこなったものである。

2023 年 12 月に翌年 3 月の完成を目標とするスケジュールの組み立てと展示内容の役割分担を決めた。リニューアルするのは館内東西の壁に位置する 5 つの展示ケースであり、内容により 3 つに分担した。次項以降の執筆者がそれぞれ該当の展示内容を担当し、イラストや地図



写真1 展示リニューアル作業の様子（1）

写真2 展示リニューアル作業の様子（2）

は岡崎が作成した。リニューアルの準備として大きく、展示品の説明をするキャプション作成と展示ケース内に掲載するポスター作成の2つがあり、いずれも「中学生が1人で見学して展示内容を理解できる」レベルを目標にした。キャプションは当学科の横内裕人教授の指導を受けて作成した。3月14・15日に資料館で展示リニューアルの作業をおこない（写真1）、それぞれ展示品の陳列など展示ケース内のレイアウトを完成させ、また仮のポスターを設置した。ポスターを入稿し、4月4日に再度訪れてポスターを設置し、展示リニューアルを完成させた（写真2）。

（岡崎壮太・越川輝）

（2）展示内容

①夜久野の古墳

夜久野の古墳に関する展示は展示ケースを1つ使用した（写真3）。

展示ケースの左端では荒堀遺跡出土の縄文時代遺物を展示した。古墳時代の展示では、展示室入口に近い展示ケース左側から築造順になるように4つの古墳（流尾古墳・長者森古墳・太田森2号墳・長尾古墳）を取り上げた。ポスターは2枚使用し、1枚目では古墳に関する基礎的な説明や夜久野に古墳が築かれた地理的な背景を解説し、夜久野に分布する古墳や遺跡のマップを掲載した。2枚目では4つの古墳についてそれぞれ解説した。展示した出土遺物には杯が多く、手前から奥に向かって時期が新しくなるように並べることで、形態の変化をわかりやすくした。また、杯身に杯蓋をたてかけることで、セット関係を視覚的に明示した。メインである長者森古墳や太田森2号墳で出土している鉄刀や馬具は、見学者が細部まで観察できるように最前面に配置するといった工夫をおこなった。展示ケース内では透明の展示台をいくつか用いることで遺物の並べ方にメリハリをつけ、単調にならないようにした。（依田萌奈）

②夜久野末窯跡群

夜久野末窯跡群に関する展示は展示ケースを2つ使用した。

1つ目の展示ケースでは導入として須恵器と高内鎌谷遺跡についての展示を設けた。須恵器についてのコーナーではポスターでイラストを用いながら各器種を説明した。その上で手前には実際に各器種で残存状況が良好な個体を展示し、各器種の概要がわかるようにした。高内鎌谷遺跡のコーナーではポスターで遺跡の位置や代表的な出土品について説明し、手前には出土遺物を展示した。また、須恵器の技法や窯壁に関する解説文を記したキャプションを作成して当てはまる須恵器の側に設置し、わかりやすい展示となるよう心がけた。

2つ目の展示ケースでは夜久野末窯跡群の展示を設けた（写真4）。ポスターでは窯跡の移



写真3 リニューアル展示（夜久野の古墳）

写真4 リニューアル展示（夜久野末窯跡群）

動を色付きの地図を用いて説明した。手前には各時期の窯跡から採集した須恵器を、もっとも形態の変化がわかりやすい杯を中心に展示ケースの向かって左側から右側に向かって時代が新しくなるように順番に2段に分けて展示した。杯のほかにも稜碗や壺など特徴的な器種も紹介するよう心がけた。また、森林科学科佐々木研究室が作成した夜久野末窯跡群付近に自生する木々の花粉分析に関するポスターや当研究室がおこなった踏査の様子を撮影した写真も展示した。

（石川達葵）

③夜久野の文化財

夜久野の文化財に関する展示は展示ケースを2つ使用した。展示リニューアル前は2ケースにわたっていた指定文化財の展示を1つにまとめ、見学順路の初めに展示してあった漆に関連する考古資料を空いた1ケースに展示し直した。

1つ目の展示ケースでは「夜久野の信仰と民俗」というテーマで指定等文化財について紹介した。ポスター5枚や遺物などを用いて展示を組み立てた。ポスターは建造物や彫刻、そして矢谷経塚出土遺物（考古資料）と額田のダシ行事（無形民俗）をそれぞれメインとして取り扱ったものを作成した。壁面中央には岡崎が作成した、ポスターサイズの指定等文化財一覧地図を掲載した。展示物は写真資料に加え、矢谷経塚出土遺物の須恵器壺・鏡・円板を陳列し、新たに円板の赤外線写真も展示した。また、福知山市HPの指定等文化財一覧ページに移動できるQRコードをガラス面に貼付した。

2つ目の展示ケースには福知山市域から出土した漆に関連する考古遺物を展示している。解説パネルや遺物については元々別ケースに置かれていたものを移動させ、並び替えて使用した。ガラス台に置かれていた解説パネルは壁にピンで留めるように変更し、遺物はキャプションとともに手前の展示台に配置した。順路の最後となるパネルには、夜久野町化石・郷土資料館近辺に所在する、やくの木と漆の館へのアクセスが示されており、見学者が夜久野の漆産業について理解を深める機会を得られるように誘導している。

（越川・岡崎）

3. 夜久野学園でのワークショップ

（1）事前準備

6月に夜久野学園小学5年生を対象にワークショップをおこなうことが決定し、4回生は展示解説の際に使用するパンフレット（京都府立大学文学部考古学研究室2024）の作成を開始した。先生方の指導を受けながら修正を重ね、パンフレットを完成させた。また、7月には



写真5 展示解説の様子



写真6 長者森古墳見学の様子

2日目に関しては3回生主体でワークショップをおこなうことが決定し、3回生は先生方や4回生の手助けを得ながら準備を進めていった。その過程で、3・4回生の一部で2日目に使用する須恵器の事前ピックアップと夜久野学園内にある高内鎌谷遺跡の下見のため夜久野町に向いた。

(石川)

(2) 当日の様子

①夜久野町化石・郷土資料館での展示解説【1日目】

9月10日、夜久野町化石・郷土資料館にて夜久野学園の小学5年生14名を対象に展示解説をおこなった。当日は展示リニューアルを進めた4回生が解説係、3回生・院生が補助係として参加している。夜久野の古墳について依田、夜久野末窯跡群・高内鎌谷遺跡について瀬川、夜久野の文化財について越川、福知山の漆に関する考古遺物について岡崎が展示解説を担当した。また漆に関する古文書についての解説を文化情報学研究室に所属する渡部が担当した。

当日の活動は資料館に集合することから始まり、学生が作成したパンフレットを配布した後、全体で一日の流れを確認した。その後、展示ケース前での混雑を避けるために児童7人と学生数人のグループを2つ作り、展示を順番に周り解説をおこなった(写真5)。解説ではパンフレットの内容説明に加えて展示品の観察を重視し、文章や写真からは読み取りにくい情報を伝えられるように工夫を加えた。また解説の途中にはクイズを挟んだほか、パンフレットの記述欄に児童が自身の考えを書く時間を設け、学生と児童がお互いの意見を交換できるように心がけた。解説が終了した後は展示を自由に見学する時間をつくったが、その際に児童からは地域の祭りや、やくの木と漆の館で実施した体験学習の話などを聞くことができた。児童の地域行事への参加状況や地域学習の在り方について得られた情報は多く、双方にとって有意義な時間となったと思う。

(岡崎)

②長者森古墳見学【1日目】

夜久野町化石・郷土資料館での展示解説後、長者森古墳に移動した。長者森古墳では、片方のグループが石室を見学している間にもう片方のグループに墳丘周辺を見学してもらい、15分で各グループの入れ替えをおこなった。石室の見学では(写真6)、京都府北部において最大級とされる石室の大きさを実感してもらうために、実際に児童に石室の長さをエスロン巻尺を用いて測ってもらった。今回測ってもらうのは石室長のみを想定していたが、児童が自発的に石室幅も測るなど、石室に関心をもち楽しんでフィールド調査の一部を体感してもらうこ



写真7 高内鎌谷遺跡見学の様子



写真8 須恵器観察の様子

とができたと考える。また、石室の壁体を触ってもらい夜久野で多数産出される玄武岩を使用していることに気付くよう導いたり、被葬者像について自分なりに考えてもらう時間を設けたりするなど、古墳をより身近な存在として捉えてもらえるよう問い掛けを工夫した。墳丘周辺見学では、一定の歩幅で墳丘を一周し長さを測ってもらい、身体を使った計測方法を実践してもらった。1 日目は長者森古墳の見学で終了した。（依田）

③高内鎌谷遺跡見学【2 日目】

9 月 11 日は夜久野学園にて、小学 5 年生を対象に授業をおこなった。当日は 3 回生が解説係となり、4 回生・院生が補助係として参加している。2 日目の前半は小学生に貴重な遺跡が身近にあることを知り、関心をもってもらうことを目的に夜久野学園の敷地内にある高内鎌谷遺跡を見学した。

当日の活動は小学校の 1 時間目の始業にあわせて学生が教室まで迎えにいき、昇降口前、グラウンド、駐車場の順に移動した。各ポイントでは事前に作成していたフリップを用いて当遺跡についての説明をおこなった。まず、昇降口前では夜久野末窯跡群内における高内鎌谷遺跡の位置と当遺跡が夜久野学園の建設に伴い調査されたことを説明した。グラウンドでは窯の構造や出土した須恵器について解説し、夜久野町化石・郷土資料館に展示されていた遺物が実際に学校の下から出てきていることを強調して伝えた（写真7）。また、ここでは前日の内容の振り返りも含めた簡単なクイズをおこない、理解を深めてもらった。最後に、駐車場にて校舎東側にある窯跡の場所や当研究室による過去の踏査について解説して教室へ戻った。

気温が高いなか外での学習であったが、普段通っている学校の下にある遺跡ということで小学生の関心も高く、学生の解説を真剣に聞いてくれたように感じた。また、前日に本遺跡の遺物を実際に見てもらっていたことから、遺物と遺構をつなげて説明することができ、小学生の本遺跡に対する理解を深めることができたと思われる。（鮫島聖斗）

④高内鎌谷遺跡出土須恵器観察【2 日目】

高内鎌谷遺跡見学の後、小学生に須恵器について知ってもらい、出土した須恵器を実際に触ってもらうことを目的に 3 回生が主体でおこなった。須恵器観察の事前準備は授業のためのパワーポイントの制作、小学生に触ってもらう須恵器の選定である。

授業のタイムスケジュールとしては、導入（1 分）、①須恵器に触ってもらう（5 分）、②特徴を言ってもらい（3 分）、③須恵器の説明（8 分）、④分類（10 分）、⑤答え合わせとフィー



写真9 夜久野学園から頂いた感想

ドバック（10分）、⑥まとめ（1分ほど）で計画した。全体を通して須恵器を触ってもらうため、授業の初めに須恵器を小学生にひとつずつ配った。導入として前日の夜久野町化石・郷土資料館の展示解説の復習もかねて、須恵器の概要や、器種について解説した。その後の①・②では、小学生に自分の手元にある須恵器を観察してもらった（写真8）。③では改めてパワーポイントで須恵器の製作技法について解説した。④では、小学生に班の形になるよう指示し、自分の班に配られた須恵器（杯・高杯・甕の三種類）のうち、それぞれの器種にあたるかを考えてもらい、班の代表の人に発表してもらった。最後に大きな甕の破片や

波状文のついた甕の口縁部の破片を教壇において見てもらい、その大きさや重さ、タタキ痕や回転痕などの製作技法を観察してもらった。

小学生は1日目では展示ケースの中で見ていた須恵器を自分で触れることができ、ワークショップ全体を通して興味津々だった。実物を手に取って観察しながら特徴を説明することで理解しやすかったのではないかなと思う。

（和田佳織）

4. おわりに

文化遺産を未来に伝えるうえで博物館・資料館はきわめて重要な位置を占めている。その展示は、地域の歴史や文化への窓口になることが期待されている。夜久野町化石・郷土資料館は夜久野町立の施設として設立され、福知山市へ合併後も地域の自然遺産や文化遺産を伝える施設として機能してきた。今回、この施設との連携をはかり、展示の中に新たな知見を加え、夜久野末窯跡群の重要性や周辺の後期古墳が特色をもつことなどが伝わるように展示替えを実施した。もちろん、これからも展示の内容は繰り返し見直されることになるだろうが、成果報告書でまとめた最新の知見を反映できたのではないかなと思う。

そして、展示の内容を積極的に市民に伝える努力が必要となるが、まずは地元の小学5年生を対象に、展示や学校での体験授業などのワークショップを実施することができた。資料館での解説にとどまらず、学校や古墳でのメニューを組み合わせ、立体的なプログラムを作ってみた。学校では早速ホームページで紹介くださり、また子どもたちの感想文をお送りいただいたが（写真9）、それを見る限り、夜久野の歴史の面白さが伝わったのではないかなと思う。まだまだ工夫を凝らす点が多々あるかなと思うが、こうした取り組みはこれからも継続していきたいと考えている。

（菱田・諫早直人）

参考文献

京都府立大学文学部考古学研究室 2024『発見！夜久野のお宝！』

菱田哲郎・諫早直人（編）2024『夜久野の後期古墳と末窯跡群』（京都府立大学文化遺産叢書 第28集）京都府立大学文学部歴史学科

編集後記

余裕をもって仕事に取り組みたい。一つ仕事が終わる度に今度こそはと思うが、今回も果たせなかった。文字通りバタバタ。年末から長い師走が続いている。一つの救いは、春からのフィールドワークに始まり、冬の集報に終わるこの一連の営みが、10号を越え、府大歴史学科の伝統として根付きつつあること。フィールドをご提供いただいた関係各所のご厚意に深く感謝申し上げたい。

なお本書の組版作業は、歴史学科文化遺産学コースの合同実習メニューとして学部生が Adobe 社の InDesign を利用しておこなっているが、もちろんそのままでは本にはならない。一書にまとめるにあたって力を尽くしてくれた大学院生の頑張りにも深く感謝したい。(い)

京都府立大学文学部歴史学科

フィールド調査集報 第 11 号

編集・発行 京都府立大学文学部歴史学科

〒606-8522 京都市左京区下鴨半木町 1-5

発行日 2025 年 3 月 31 日

印刷 株式会社 北斗プリント社

〒606-8540 京都市左京区下鴨高木町 38-2
